

## 大気浮遊じんの放射能濃度測定結果 (H28. 6/29~7/13)

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内で収集した大気1m<sup>3</sup>あたりの浮遊放射性物質の濃度(ミリベクレル/m<sup>3</sup>)を測定しました。※下段( )内は検出限界値。

測定地点			6/29~7/6	7/6~7/13
小高区	川房公会堂 (川房)	Cs134	0.069 (0.015)	0.094 (0.016)
		Cs137	0.340 (0.013)	0.450 (0.016)
	金房小学校 (飯崎)	Cs134	0.033 (0.014)	0.048 (0.016)
		Cs137	0.140 (0.014)	0.210 (0.015)
	塚原公会堂 (塚原)	Cs134	0.019 (0.011)	0.120 (0.017)
		Cs137	0.078 (0.013)	0.600 (0.015)
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	Cs134	不検出 (0.013)	0.084 (0.022)
		Cs137	0.058 (0.013)	0.470 (0.021)
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	Cs134	不検出 (0.017)	0.036 (0.017)
		Cs137	0.041 (0.014)	0.190 (0.017)

【お知らせ】平成28年4月から、試料の採取方法が7日間の連続吸引に変わりました。

(ミリベクレル/m<sup>3</sup>)

測定地点			6/29~7/6	7/6~7/13
原町区	横川ダム (馬場)	Cs134	0.057 (0.014)	0.035 (0.017)
		Cs137	0.280 (0.013)	0.230 (0.015)
	原町保健センター (小川町)	Cs134	不検出 (0.018)	0.015 (0.015)
		Cs137	0.086 (0.019)	0.100 (0.013)
	高平生涯学習センター (下高平)	Cs134	不検出 (0.019)	0.089 (0.021)
		Cs137	0.079 (0.016)	0.470 (0.020)
市立総合病院 (高見町)	Cs134	不検出 (0.015)	0.080 (0.019)	
	Cs137	0.110 (0.012)	0.460 (0.022)	
大原公会堂 (大原)	Cs134	0.030 (0.017)	0.028 (0.019)	
	Cs137	0.110 (0.017)	0.160 (0.016)	

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m<sup>3</sup>の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、放射能濃度が検出限界値未満の場合、「不検出」と判定されます。

### ★渡邊正己京都大学名誉教授 (市放射線健康対策委員会委員長)による解説★

今回の観測値は、日々多少の変動はあるもののセシウム137で0.23±0.17mBq/m<sup>3</sup>と低い濃度で推移しました。今回、最も値が大きかったのは、塚原公会堂で観測された0.6mBq/m<sup>3</sup>でしたが健康影響を考慮せねばならない濃度に大きく及びません。

これから盛夏になって乾燥が続くと塵埃が飛散することが予想されますが、事故後、今までの放射能飛散の結果から見ると、健康影響を考慮せねばならないような濃度が観測されることはほとんどないと思います。